

熟練工の経験と、500t プレス機で金属加工に挑む

コスト
相談
オンリー
ワン技術
メイド
イン
ジャパン
試作可
小ロット



500tブレーキプレス機

業務内容
切断・穴あけ・曲げを
一貫した加工

「黄山金属プレス工業所」は昭和26年創業の金属加工会社。鉄板やステンレス鋼板などの切断、穴あけ、曲げ加工を手がけ、「曲げられない鉄はない」をモットーに取引先からの難しい注文に対応している。創業当初はボルトを締める際にナットの下に敷く座金などを手がけていた。

昭和53年に500tの力で曲げ加工できるプレス機を導入したことで、厚さが45mmある鋼材の加工もできるようになった。現在はゼネコン向け大型建築資材や、ダムや橋の修理に使われる部材などを手がけている。

強み
熟練工がこれまでに
蓄積したノウハウ

熟練工の蓄積したノウハウが同社の強み。50年以上のベテランが3名も在籍している。例えば同じサイズの鋼板を曲げる際に、鋼板のロール目、反り、ひねり具合などによって微妙に変わる。同社では、全長7mの金属板でも±1mm以内の高い精度で曲げ加工ができる。

「精密な加工ができるのも彼らのおかげ」と黄山琢真取締役は胸を張る。現在、彼らの技を身につけようと若手社員が奮起しており、ノウハウが次世代に継承される環境を整えている。

地域連携
鉄の町、九条の活性化

同社が本社を構える九条界隈は昔から鉄に関して切断、穴あけ、曲げなどの加工に特化した多くの町工場が互いに協力しながら共存してきた。しかし、近年は

廃業するケースも目立つ。そこに危機感を抱いた黄山取締役は、日頃なじみのある5社と平成27年に「てづくり工場組合」を設立した。受注した仕事の中で同社での対応が難しい場合など、組合の企業に要請しお互いが仕事を融通する形を目指している。

また、連携により消費者向けの商品の開発にも取り組み、平成29年3月には鉄の重量感を生かし、店舗向けの立て看板を販売する予定だ。

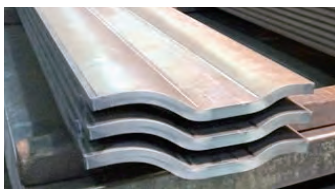
今後の展望
設備導入とオリジナル製品の
開発を進める

今後の課題は取引先への納期対応だ。以前から既存の機械では鋼板の受注量に1社では対応できない場合があった。これを解決するため平成29年度に最新のレーザー加工機を導入して加工能力を高める。さらに設備導入に合わせて3年以内を目途に工場内の配置を変更し「今より効率的に作業できる環境を整えたい」と黄山取締役は意気込む。

加工体制が整えば、例えば家庭用テーブルの脚といった家具など新分野の仕事にも力を入れる。これらの取り組みで平成28年度の売り上げ約2億6,000万円を平成31年度には10%引き上げる。



極厚の曲げ加工



SS材、厚み19mm×1,800mm、エブロン加工

当社の歴史



創業当時は座金などの加工を中心に手がけていました。500tプレス機の導入がきっかけで、他社では難しい厚みのある鋼材を加工できるようになり、現在は熟練工から若手に技術継承が進んでいます。これからも九条の地で「てづくり工場組合」の仲間と協力して地域を盛り上げていきます。

取締役 黄山 琢真さん

<http://www.kiyama-mb.jp/>

主な事業内容
鋼材の加工および販売

主な取引先(納入先)
鋼材メーカー、鋼材商社、
建機メーカー、プラント、
水門関連メーカー

●住所 〒550-0025
大阪市西区
九条南4-22-17
●TEL 06-6581-6450
●FAX 06-6581-2761
●創業 昭和26年8月
●設立 昭和38年8月
●資本金 1,000万円
●従業員 15名